

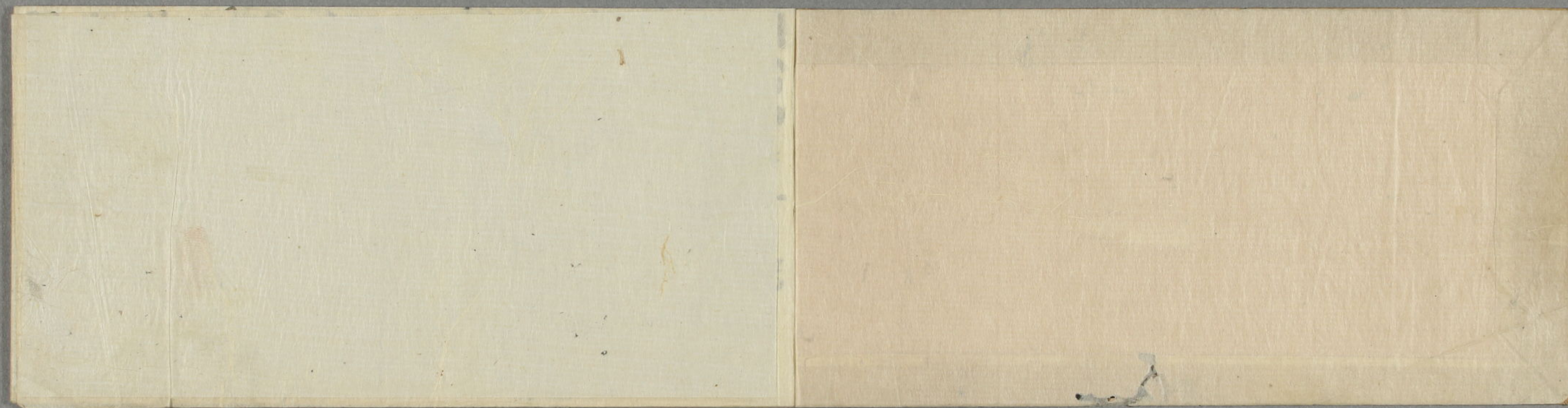


明治四年辛未  
八月二十六日ヨリ  
九月二十日付到

三

早稲田大学図書館  
文書 27  
A 34  
3





明治四年未日記

八月廿五日色温泉占

歸

廿七日上二廳戸籍

義論松島

廿八日上廳退出直

新保山老門件到

山吉兵部省所用申来

其義相談

妻學以日色温泉

歸

廿九日

武尊公 蘆山公

伊神祭成

延四位為志年齋齋  
院大集寺也祭文  
禊士族齋頭中拜  
礼平官具拜禮  
其内士民一拜  
礼大群集也  
縣廳三官負  
一。松鶴殿  
所  
以夜之志乃決  
向所集之志進  
議入歸進所  
祭事ノ見ル

九月朔日  
松鶴殿松宮  
舞踏放歌以日群  
集于可齋  
歸宅大醉  
百上廳

三日

四日

五日

六日

七日晴 必家

縣廳 必家 一評

真、發、雷、大、澤、歌

日、香、雨、下

李平 駐主心 志、一、不、飲

福島天明

八日晚雨 放晴 示松

傳朝 餐 須賀川

晚 登 長 坂 三 点 心 燈 之

白川 雨 甚 白 改 芦 野

間 天 明

九日 苦 新 朝 食

南 崎 喜 連 川 晚 食

預津舟店...  
十日美晴...  
舟中始覺...  
又東...  
中...  
一番...

川口...  
東京...  
舟中...  
山林寺...  
山...  
現...

朝小宮後代守  
森吉上家深別

縣制事  
先中  
福

子之身七十之計  
存子之身七十之計  
西  
付

世  
世  
世

十  
世  
世

開

何  
世  
世  
世

朝  
世  
世  
世

森  
世  
世  
世

看  
世  
世  
世

公  
世  
世  
世

丁酉  
古雷一得兩極極也  
靜步亦宜  
多儀用子  
其居居  
物先於并  
形勝泉助  
臨長  
朝也利  
浪華  
○銀服  
○辛卯  
○四

戊辰年  
頃帶  
融通  
兩全  
送節  
右  
然  
新  
戊辰  
物



藏出入外物身大  
 藏出入外物身大  
 學校入費之致  
 後之送身何分  
 書市不立市一  
 幸中全了  
 九月十日  
 口一和重利之批

口一和重利之批  
 有能性中感  
 里密水自包十好  
 新流如失古物  
 舟數寄居壽

工一の雨  
 阿波種所子餐  
 緩流十守末  
 常印石山端  
 有明極日船  
 志公在左  
 岩小宅本寺  
 板板也

協興の僧しお中  
 歸舟  
 十切

此の事案の事あり  
七ヶ所持年

森古う侍

可事あり侍

此の事案の事あり

古用状あり侍

昌信侍侍

和子細侍

と

十日晴

伊東の事あり

平後森寺馬車

と護り果石同業

阿波印の到達

伊藤の事あり

共の阿波の會入る者

板垣申判状

小室の事あり

林為知抱大義事

林の事あり

二

阿菊の事あり

伊藤の事あり

伊丹由利日船

十九

付安要家の向す

云々  
船を有るは船者  
やうに大々像を  
屋やを多し  
勝りしは所不在居

伊藤在りし  
おのれり

船に、柳橋の船  
ふり、あはれり載せ  
姓向若手は因縁

二、目、見、事  
二、目、見、事

船に、見、事

云々  
船に、見、事

船に、見、事

船に、見、事

山形縣より續て  
多摩川に於て  
山形縣中野田郡  
河原田村に於て  
丹波川と合流す  
此處に山形縣  
河原田村と  
丹波川と合流す  
此處に山形縣  
河原田村と  
丹波川と合流す

本誌より訪不材  
河原田村と  
丹波川と合流す  
此處に山形縣  
河原田村と  
丹波川と合流す



口呼。少事。學。教。類。  
多。人。多。事。多。事。

可。也。

所。占。所。向。之。狀。亦。  
山。者。地。向。也。

所。占。所。向。之。狀。亦。  
山。者。地。向。也。

所。占。所。向。之。狀。亦。  
山。者。地。向。也。

所。占。所。向。之。狀。亦。  
山。者。地。向。也。

所。占。所。向。之。狀。亦。  
山。者。地。向。也。

所。占。所。向。之。狀。亦。  
山。者。地。向。也。

所。占。所。向。之。狀。亦。  
山。者。地。向。也。

所。占。所。向。之。狀。亦。  
山。者。地。向。也。

所。占。所。向。之。狀。亦。  
山。者。地。向。也。

所。占。所。向。之。狀。亦。  
山。者。地。向。也。

所。占。所。向。之。狀。亦。  
山。者。地。向。也。

所。占。所。向。之。狀。亦。  
山。者。地。向。也。



